

令和6年度 石川県能登部保健所運営協議会 議事録

日時：令和7年1月30日（木）14：00～16：00

場所：奥能登行政センター42会議室

1. 開会（所長挨拶）

委員の皆さまには、大変お忙しい中、お集まりいただき誠にありがとうございます。本日、ご出席の委員の皆様方には日頃より各分野において、能登北部地域の保健、医療、救急、福祉、食育等に多大なご尽力を頂いておりますことに感謝申し上げます。

昨年は能登半島を中心に最大深度7の大地震が発生し甚大な被害をもたらし、また、追い打ちをかけるかのように、昨年9月には、復旧・復興の途上にある被災地に記録的な豪雨が襲い、未曾有の複合災害が発生しました。

現在、この災害に対し全国各地から医療・福祉等の各機関から支援をいただき復旧・復興に取り組んでいます。当保健所も全職員を上げ、保健師等は患者等の安否確認、健康管理、福祉関係職員は関係機関および対象者に連絡等などの業務に取り組んでおります。

また、保健所は、たばこや薬物の害に関する知識の普及、栄養の改善に関する啓発、乳幼児等の保健、精神保健、エイズ、結核、性感染症などの予防、食中毒の予防、廃棄物の処理などの環境衛生、薬事に関すること、衛生上の試験及び検査など幅広い業務を行っております。

本日それらの業務のうち、主だったものについて説明させていただきます。

その後、委員の皆様から保健所の業務に対し忌憚のないご意見をいただき、保健所運営をよりよくしてまいりたいと考えています。

議題のその他としまして、能登北部保健福祉センターの今後について厚生政策課より説明をさせていただきたいと思い、厚生政策課蟹由課長のほか2名の職員に出席いただいております

よろしく願いいたします。

2. 委員紹介及び保健所職員紹介

3. 委員長選出

4. 議事（事務局から説明）

- (1) 歯と口腔の健康づくり推進について（企画調整課）
- (2) 食品衛生法の改正について（食品保健課）

(3) 指定難病について（健康推進課）

(4) 入浴支援を行う公衆浴場への衛生管理者指導について（生活環境課）

5. その他

能登北部保健福祉センター庁舎移転について（石川県庁厚生政策課）

6. 質疑応答

(1) 歯と口腔の健康づくり推進について

委員)

子どもの虫歯予防対策事業や被災者歯科支援事業の時の薬剤はどのようなルートで購入したか。輪島市の場合、薬局が依頼を受けフッ素化合物の薬品を購入、納品したと聞いたが。

事務局)

珠洲市の子ども虫歯予防対策事業の時はどうだったか？

委員)

珠洲市は取り組んだところで、そこでデモをした時に原液をかなり薄めたものを使ったが、それをどこから調達したかは把握していない。その場に置いてあったので、保育所に訊けばわかると思う。

委員)

市町からどのようなルートで入手できるか、薬局に相談があった。輪島市では輪島市の薬局が交渉して納品したという事例があり、マニュアル化してもらえると購入側も買う場所がわかる。

事務局)

後日調査し、まとめて報告する。

(2) 災害時安否確認必要者対応について

委員)

震災時に難病患者等への対応で困ったことは何か。

事務局)

震災直後では停電等が原因で通信が途絶え、連絡がつかない患者がかなりいた。通信は徐々に回復したものの、通信手段がない地域では近隣の状況を確認しながらDMAT等と協力し情報を得た。患者の移送については消防などにもお世話になり、救急車やヘリコプターで対応してもらった方もいる。

今回は保健所職員がなかなか登庁できず、情報が得にくい部分があったが、今後は登庁できなくても近くの行政施設からアクセスできるデータベース作りなどで対応していくつもりである。

所長)

災害時の避難計画については市町が主体となって個別計画を立てることになっているが、奥能登の4市町ではあまり進んでいない。他の自治体の個別計画を見ると、民生委員がまず見に行き、必要があれば救急車を呼ぶとあるが、今回の地震では民生委員も避難し数日は帰ってこない、救急車も緊急度の高い方に先に行く等のことが起こった。個別計画の立て方を、奥能登地域だけでなく全国的に再検討が必要と思った。

(3) 新庁舎移転に係る機能強化について

委員)

新庁舎を整備する中で機能強化を図っていくというが、利便性だけでなく、組織として規模を大きくする、新しいセクションを設けるという考えはあるのか。

厚生政策課)

現時点では、今の奥能登HCの職員がそのまま移るものと考えている。ただし、災害時に他地域の方々が参集し、拠点本部として機能できるように整備するつもりである。

(4) 新庁舎設備について

委員)

新庁舎の中に調理実習室のような所を作ってほしい。

厚生政策課)

奥能登行政センターに実習室があるため、現時点では考えていない。

委員)

こちらの実習室は狭く、あと2台程度調理台が欲しい。

厚生政策課)

何人ぐらいの規模の実習を年間何回やっているのか、など実情が知りたい。

委員)

コロナ禍以降全く使えなくなり、コロナ期間は全く実績が無い。去年は、災害食の勉強会というテーマで1回開催したが、参加人数を絞っての開催だった(各市町2,3人程度)。もう少し広ければ参加人数も増やせる。しかも現在は災害関係者が多く出入りし、調理室に災害関係の機材が置いてあったりして大変使いにくい。3月に予定した実習では、穴水町保健センターの調理実習施設を使うことになっているが、できれば能登空港のようなイベントの中心になる場所で行いたい。

厚生政策課)

今はお答えできないが検討はさせていただく。

(5) 新庁舎建設予定地のアクセスについて

委員)

今回の災害で半島特有の交通事情のため、災害復旧や人名の確保が遅れるという事態があった。建設予定地の三井町洲衛の道路は1本だけである。空港はあるものの、緊急災害時という面では、たとえば海からのアクセスなど他の方法を検討してほしい。

厚生政策課)

そういった意見があったことは担当部局に伝達する。

7. 閉会(所長挨拶)

震災からの復旧・復興はまだまだ道半ばの状況です。

従来どおりとはいかないながらも、地域の保健について、皆様のお知恵もお借りしながら行っていければと考えています。

引き続き保健所の運営にご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。